



# あおもり 町連だより

第170号

平成17年1月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584  
FAX 017(734)2587



佐藤久雄会長

● 明けまして おめでとうございます ●

# 町会の課題解決をバックアップ

**厳しい財政環境にも対応**

明けましておめでとうございます。

町長、町会員の皆様には、希望に満ちた新年を  
を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

平素、皆様には町会連合会の事業運営にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、ごみ分別収集へのご協力や清掃美化、青少年の健全育成、自主防災活動などに取り組まれ、安全で安心な住みよい地域づくり活動をなされているご苦労に対し、心から敬意を表します。

お陰様で16年度に計画した町会の諸活性化支援事業もおおむね順調に推進することができました。

さて、迎えた17年は、4月1日に青森市・浪岡町の合併による新青森市が誕生します。これに伴い住民自治組織であり、公共的団体として位置づけられている両市町町会の連合会も一本化され、町会活動に必要な情報提供などのサービスに格差が生じないよう、交流と情報交換を行い、統合に向けた協議を進めて参りたいと考えております。

町会連合会はこうした社会情勢の変化する中で、町会が活動しやすい環境づくりと活性化支援に努めるべく使命と責務を果たして参りたいと意を強めているところであります。

そのための情報収集と現状把握として地域協議会ごとに開催する町長研修会と意見交換会を通して、課題を把握しながら、解決して参りたいと考えております。

しかしながら、町会連合会を取り巻く財政環境は厳しくなってきております。そのため、今後の事業運営の方向性を検討するため、昨年6月に



幅広く活用される西部市民センター  
(昨年四月一日オープン)

「事業運営のあり方検討委員会」を設置し、現在審議を継続しておりますが、2月を目途に結果を取りまとめて各町会にご報告する予定であります。

皆様の一層のご理解とご協力を願うる次第  
であります。

年頭に当たり、各町会のますますのご発展と町会長、町会員皆様にとってよき年となりますよう祈念いたします。

17年度の定時総会は5月18日

17年度の町会連合会定時総会は、12月16日(木)開催の第8回常任理事会で、5月18日(水)午後1時から市文化会館で開くことに決まりました。

理事・  
部会員研修会

「地域の防犯にどう取り組むか」

# 再び地域の連帯感確立を

おれおれ詐欺の寸劇も披露

町会連合会は11月30日(火)、市文化会館に青森警察署生活安全課長の吹越一人警部を招いて、「地域の防犯にどう取り組むか」をテーマに16年度の理事・部会員研修会を開きました。



最近、押し込み強盗や引っ張り強盗、連れ去り未遂事件などが身近なところで発生しており、各町会にとっても安閑としておれない状況になっています。そんなこともあって、研修会のテーマに防犯を取り上げたものです。

吹越警部は講話の中で、平成3年から外国人犯罪が増えはじめ、10年ごろから残忍な強盗事件

## 小学6年から防犯標語募集 (防犯協会中央支部) 生徒との共通理解にも努力

防犯協会中央支部長の石川穹さんが上浦町町長を兼ねており、同支部では青森警察署中央交番や町会連合会と緊密に連携をとりながら、防犯活動にことさら力を入れています。

その一つは、7月20日の防犯合同研修会。地域が「ねぶた」の運行コースになっており、祭りの成功と同時に、夏休み中の児童・生徒の健全育成を図らなければならないとのこと。このため、小中学校長(5校)・警察官・指導隊員・連絡所員・町会連合会代表・防犯協会員の出席を得て情報交換し、対策を協議しています。

そして、全国地域安全期間に合わせて3小学校の6年生全員から防犯標語を募集し、審査して優秀な作品を表彰。その作品は青銀柳町通り支店に展示(その後移動展)し、関心を呼んでいます。

が増えるようになった全国的な傾向を紹介。それは街頭犯罪と侵入犯罪、それに少年犯罪が深刻になっているといいます。

町会としては、薄れた地域の連帯感を取り戻すことが大事で、既存の防犯協会、防犯協会支部、防犯指導隊、防犯連絡所、最近の女性子供110番、少年補導員の方々とも連携をとる必要があると強調。地元の交番、駐在との密なる情報交換を要請しました。

また、地域での防犯講習会や「声掛け運動」を提唱しました。泥棒は声を掛けられると、ことさら「どきっ」とするそうです。

このあと、街頭犯罪の引ったくり、車上狙い、自動車盗のビデオを上映、署員による「おれおれ詐欺」の寸劇を披露して喝采を浴びました。

これに先立って北国のくらし研究会が、雪で困っている人を助ける「スノーナイト(雪の騎士)」の称号について紹介、ナイト募集への協力を要請しました。



また、防犯フォーラム(10月18日)は2校の中学生代表40人を対象に開き、万引きのことから携帯電話、パソコン、メール、チャット、掲示板などの使用について、生徒と会員が親しく話し合い、共通理解に努めたといいます。

広報活動としては、中央交番の「広報中央」(毎月)とともに「ちゅうおうあんぜん」を発行し、11月で46号を数えています。



## 市が除排雪計画説明会 昨年よりも6.8km延長

### 市民の協力欠かせぬ雪対策

青森市の平成16年度除排雪事業実施計画説明会が、11月16日(火)ラ・プラス青い森で開かれ、町会連合会から正・副会長、地区連合町会長ら50人が出席し、実際の除排雪によって生じる問題点などについて質疑を交わしました。

今年度の除排雪は総延長1,168.8kmで、昨年に比べて6.8km長く、昨年より充実した除排雪体制。雪対策は市民、企業、市の連携・協力が不可欠であり、各町会への説明や広報、テレビ、ポスター、チラシ(毎戸配布)などを通じてPRする段取りです。

また「青森市市民とともに進める雪処理に関する条例」が6月に制定され、除排雪作業に支障をきたし、再三の指導に対しても従わない場合、勧告をすることができるようになりました。



除排雪計画について質問する出席者

続いて出席者から「業者と町会連合会役員の意見交換ができないものか」「狭隘道路の交差点の除雪は通れなくなるので特に注意してほしい」「全面委託工区なのに上の指示がないので除排雪しないとはどういうことか」「歩道を駐車自動車が占拠しているので駐車禁止の指定をしてほしい」「どのような判断で除排雪を行っているのか、まちまち。ブロック代表責任者によるのか」などの要望や意見が出されました。

これらについては、市が直接業者を指導するほか、駐車違反については警察官が巡回指導するなどの方向を示しました。

### 除排雪業者への指導の徹底 不法駐車取り締まり強化を 市長と警察署長に要望書

町会連合会は、降雪期を迎えて毎年各町会が対応に頭を痛めている除排雪作業の仕方と不法路上駐車対策について、11月2日(火)に青森市長と青森警察署長に要望書を提出しました。

#### ○道路除排雪事業に関する要望(青森市長へ)

- ・除排雪業者へ遵守事項を徹底するよう指導すること
- ・道路交差点付近の雪盛りを解消すること
- ・玄関前などへの雪寄せをしないこと
- ・県道などと市道交差点部分の段差をなくすること
- ・雪処理条例の規定が守られるよう監視と適正な措置を講じること

#### ○不法路上駐車の取り締まり強化についての要望 (青森警察署長へ)

- ・町会と連携し、不法路上駐車の取り締まりを強化してもらうこと

なお青森警察署は要望にこたえ、不法駐車関連の罰則として3つの態様を示した警告文書を出し



除排雪を妨げる  
不法路上駐車

ましたので、町会連合会は11月24日(木)に各町会長に毎戸回覧を依頼しました。

またアパート入居者への不法路上駐車防止の呼びかけを、青森警察署長名で土地建物取引業団体に依頼をしていただきました。

### 町会要望の交通安全施設

#### 10月に現地で交通診断

各町会長等から出された16年度の交通安全施設の整備要望について、16年10月25日から27日までの3日間、青森警察署、市交通安全推進課・道路維持課、町会連合会の3者が地元町会長の現地立ち会いのもと交通診断を行いました。

診断個所は信号機関係が12カ所、交通規制関係32カ所で、この結果は12月2日(木)付で関係町会に連絡しました。

第27回

## 町内女性の集い

## 大事にしたい花いっぱい運動

## 10人が市長と意見交換

第27回町内女性の集いは10月19日(火)市文化会館5階大会議室で320人が参加して開かれました。今年は「町内女性と市長との懇談サロン」として、「男女共同参画社会と町会活動～住みよい地域づくりに向けて～」をテーマに、女性町会長2人を含む10人が次々意見を出し、市長や市理事者から回答を引き出していました。

初めに佐藤久雄町会連合会会長があいさつを述べたのに次いで、佐々木誠造市長が浪岡町との合併、雪処理に関する条例、青森市こども総合計画などに触れたあいさつをしました。

市長は情報提供の中で、女性部会が展開する環境美化活動、花いっぱい運動・一鉢運動は、市民と行政のパートナーシップで良いまちをつくる一つの方向性として大事にしたいと強調。健康づくりや地域における子供への支援などを大きな柱としているといい、情報提供の場「つどいの広場」を来年度開設することにしており、市民とのパイプを太くし着実に進めていきたいと述べました。

このあと意見交換に入り、「街路に花を植えて



市長と意見交換する  
女性部員

町内をきれいにした」ことから「若いお母さん方を活動に参加させ活性化した」「ごみ出しルール・マナーが守られない」「健康をつくるまちづくり推進」「子育て支援活動」「防犯活動」「高齢者支援」など次々出されました。

市側からは、「機会あるごとにごみ出しルール・マナー等の啓発に努めているものの、一部の心無い行為が後を絶たない」「新しく市がパートナーシップによる花と緑の事業を立ち上げている。その気があるところは手を上げていただきたい」などの答えがありました。

## 新町会ができ374町会に

平成16年8月19日(木)に朝日坂団地町会(15世帯)が誕生し、10月1日付で町会連合会に加入しました。これで市内の町会は374となりました。

## 16年度の町長研修会

## 課題や要望など次々出す

## 町長、町連役員と意見交換

16年度の町長研修会と町会連合会役員と町長との意見交換会を、次の通り開催しました。

町長との意見交換会は、町会が抱えている課題を把握し、今後の町会連合会の事業に反映させるため、16年度の新規事業として地域協議会ごとにしましたが、出席した町長から、ごみ出しのルール、マナーの乱れで頭を痛めていることやアパート入居者の町会未加入と町会費徴収で困っていること、道路側溝、信号機などの交通安全施

設が要望しても設置されないなどの意見が多く出されました。

地域協議会名	開催日	参加者	会場	テーマ・講師等
中部(58町会)	9. 29 (水)	32人	古川市民センター	テーマ「地域とわが家の防災対策について」 講師 青森市総務部危機管理室長 竹内 芳氏
南部(104町会)	10. 8 (金)	58人	県教育会館	テーマ「年金制度について」 講師 青森社会保険事務所年金給付課長 成田 千秋氏
東部(92町会)	10. 20 (水)	54人	老人保健施設「ナーシングライフ」	テーマ「町長の健康管理について」 講師 社会福祉法人恵寿福社会看護士長須藤ツルノ氏
西部(89町会)	10. 26 (火)	54人	西部市民センター	テーマ「西部地域の活断層について」 講師 弘前大学理工学部自然防災工学講座教授附属地震火山観測所長田中 和夫氏
北部(30町会)	11. 11 (木)	23人	油川市民センター	テーマ「地域の活性化(和)について」 講師 青森県監査委員鶴賀 茂世氏

事業運営の  
あり方検討委

## 経費の節減合理化に努力

中間まとめ

### 優良町会表彰も廃止へ

町会連合会の財政環境が厳しくなってきたことから、今後の事業運営の方向性を検討するため、昨年6月15日(火)に佐藤久雄会長を委員長とした「事業運営のあり方検討委員会」を設置し、12月16日(木)に4回目の検討委員会を開き、中間まとめを行いました。

中間まとめでは、今後の事業運営について既成事実にとらわれることなく、事業効果等を十分検討し、創意工夫に意を用い、経費の節減合理化に努めるべきとしています。

これまでの事業について

- ① 17年から町会長への年賀状を廃止する。
- ② 17年度から5年ごとの永年勤続町会長表彰を改め、退任時に1回の表彰とする。
- ③ 17年度から優良町会表彰（交通事故防止、



経費節減を協議する  
検討委員会

防犯、環境美化）を廃止する。

- ④ 青函交流研修会時の函館市町連参加者へのお土産を廃止する。
- ⑤ 地区連合町会を活性化し、活動していない地区連合町会へは助成金を交付しない。などが意見集約されました、引き続き審議することとしています。

### 川崎市自治組織連と意見交換会

#### やはり町会未加入など悩み

町会連合会は、10月12日(火)に青森市を訪れた川崎市自治組織連合会の一行13人と市福祉増進センターで交流意見交換会を開催、町連側からは各部会長、副部会長も出席しました。



歓迎のあいさつをする  
佐々木市長

川崎市連合会のメンバーの中に、佐々木誠造市長の友人が役員として入っていたこともあって、市長も駆けつけて歓迎のあいさつ。次いで佐藤久雄町会連合会会长、中島豪一川崎市連合会会长がそれぞれあいさつし、話し合いに入りました。

初めに両市の市勢、住民組織、連合会組織、連合会活動などについて、それぞれ説明。川崎市の人口が桁違いに多いことはもちろん、役員構成、

事務局（組織段階で区役所内、支所内、出張所内）の設置、補助金等も青森市とは異なっています。

課題や問題点では、川崎市でも未加入世帯の加入問題、ごみ出しマナーの問題等に頭を悩まし、ある町会ではよそから来てごみを捨てた人には「とんでもない。ここのごみ全部持って行け」と強硬手段を取ることにしたとか。互いに活発に意見を交わしたあと、日本一おいしい水「ブナの雫」を贈り、閉会しました。

#### 5町会長が受賞 16年度市表彰

平成16年度の青森市表彰の表彰式が10月13日(水)ホテル青森で行われ、長年（町会長として15年以上勤続し、60歳以上の現職町会長）にわたって町会長として市勢発展に功績があった次の5氏が表彰されました。

- 古川 哲三（稻元第三町会長）
- 太田 巍（すみれ町会長）
- 桜田 秀雄（ひばりの町会長）
- 柏原 隆太郎（橋本南町会長）
- 松田 功（桂町会長）

ごみの  
収集場所

# 分別マナーなど改善必要

## 初めて現地調査・研修

昨年9月下旬から10月中旬にかけて延べ6日間、全町会の中から無作為に6町会7カ所を選び、ごみ収集状況について、初めて現地調査・研修を実施しました。参加者は町会連合会環境衛生部会2人、市清掃管理課2人、それに現地関係町会長です。

### 1、ごみの出し方の状況

- (1) 決められた種類のごみを出しているか  
「出している」6カ所、「出していない」1カ所。一応良好と思われる。
- (2) 分別して出しているか  
「きちんと分別している」「大体分別している」を合わせ4カ所。「あまり分別していない」3カ所。これは改善の余地があり、各町会長とも頭を痛めている。  
 ○アパートの住民・学生の分別マナーが悪い。  
 ○他町会からの持ち込みがある。  
 ○有料毎戸収集も考えるべきではーの意見も。

### 2、ごみ収集場所の状況

- 7カ所ともボックス（スチール製、木製）が利用されており、管理も一応良好である。各町会長のご苦労が分かる。
- 収集場所がきれいだと、マナーも良くなる。
  - 収集ボックスに花のプランターを置いて改善を図っている。
  - 「ごみ捨て禁止」の看板の設置や地元小学

### – 町会の実態調査 –

## 結果を各町会長に送付

昨年8月に町会の実態調査を行いましたが、373町会中339町会（回収率90.9%）から回答がありました。

この調査は、町会の基礎的な姿を把握し、今後の町会連合会の事業運営に活用するとともに、各町会の活動の参考にしていただくために行ったもので、提出された内容を取りまとめ、10月8日(金)に各町会長に送付しました。

なお調査結果の分析は、現在作業を続けていま

生の描いたポスターを掲示、効果をあげている。

- 収集場所の清掃は当番制で実施している。



ごみの分別状況を調査する  
環境衛生部会

### 3、不適正排出物（不法投棄）の状況

- 「収集場所に不適正排出物が出されている」6カ所、「出されていない」1カ所。  
 ○出されているものはストーブ、テレビ、自転車、カセットボンベ等々。これにも各町会長は頭を痛めている。  
 ○他町会住民の持ち込みがある。  
 ○引っ越し時期に多く出される。
- 以上現地調査の結果について、概要を紹介しました。ご協力をいただいた町会の方々の悩み、問題点は全町会の共通のものと受け止めています。
- 今後は先の実態調査のアンケートの内容を踏まえつつ、改善に向けて行政やごみ問題対策市民会議などと協議していくことにしています。

ですので、結果がまとまり次第、各町会長に送付する予定です。

## 葬祭用ポスターご利用を

町会連合会では、冠婚葬祭簡素化運動を推進しています。その一環として「葬祭用ポスター」（1枚250円）を販売しています。どうぞご利用ください。





## 花プランターが300個 通りが一段ときれいに

当町会は、世帯数が210です。町会名が示すように、初代町会長をはじめとした町会員が「住み良い町にしよう」と願いを込めて名づけ、発会しました。今年で33年になります。

みんなが参加できる事業として、8年前に花プランター事業に取り組みました。プランターに土と堆肥を入れ、秋まで咲くベゴニアなどを植え、町内各所に配置しました。



## 感動の作品がずらり 大勢が「文化展」を観覧

第3回町会「文化展」を10月30日(土)、31日(日)に滝内福祉館で開催しました。出品は大人が絵画、写真、書、手芸、盆栽、菊花、陶芸に及び、児童の絵画、習字と合わせ総数122点。大勢の観覧者でにぎわいました。

町内の皆さんのが、日ごろ精進なさっている趣味の作品を発表し合い、広く鑑賞していただくことを目的に開いています。子どもたちの作品

### 住良町会

プランターは増え、昨年は300個を数えました。増えると管理が大変で、水やりや草取りを各家庭にお願いしていますが、町会役員や婦人部、老人クラブの方々、時には西中学校生徒もボランティアで管理してくれます。

花プランターを設置したお陰で、道路のごみ捨てが少なくなるなど、町並みがきれいになりました。

このほか、町会では「食と健康セミナー」を開催するなど、「一輪の花を家庭に・安心安全な食を家庭に」をスローガンに、町会あげて頑張っています。



お  
み  
ま  
ま  
漫

### 稻元第一町会

は、当町会が健全育成の一環として実施している事業「夏休み子どもの集い」の活動の中から生まれたものです。

丹精こめて育てた盆栽、菊花の姿の美しさ、そして絵画や写真の技術が優れているところにも自然の美しさを引き出し、強調できるものかと圧倒されました。またレース編み、陶器、こぎん刺し、編み物、帽子、押し花、和紙人形などにも感動させられました。

子どもたちの作品もすばらしいものばかり。各種の展覧会で入選し、たくさん賞をいただいていることも喜びの一つです。



## 頑張っています

### 常に若い気持ちで活動

玉川町会青年部の結成は昭和52年。初代町会長・大湯繁司さんが、町内の環境整備には若い人たちの力が欠かせないと提唱し、実現にこぎつけたのです。

以来、側溝の泥上げ、花壇づくり、盆踊り大会の準備など精力的に活動し、町民から感謝されてきました。

ただ、その後の社会情勢の変容などから部員が減少し、現在は9人で平均年齢も50歳を超えている状態です。そんな中で「青年であ

### 玉川町会青年部



町内の雑草を刈り取る  
青年部員

るという気持ちを持ち続けている間は青年」との信念で活動を続けています。

昨年も道路わきの除草作業、側溝の泥上げ、ごみ拾い、納涼ビアパーティー、旅行、子供会の手伝いと幅広く活動しています。

にお知らせ。

③ 12月8日(水)に「アパート入居者の町会加入と町会費徴収に関して、アパート所有者及び管理業者に協力方の説明をなされるよう」土地建物取引業団体2社に協力を要請。

④ 12月17日(金)に青森県宅地建物取引業協会青森支部の「支部だより」にアパート入居者のごみ出しマナーアップと町会加入について協力依頼文書を掲載。

なお、少しずつではありますが、町会に協力する土地建物取引業者も見られるようになっています。今後も引き続き関係団体に協力を要請することにしています。

### 編集後記

年の瀬も押し詰まった12月16日、市内で娘をかたる女の電話に父親が300万円を振り込んだ「振り込め詐欺」事件がありました。町会連合会では昨年11月末、町連役員を対象に防犯についての研修会を開き、街頭犯罪やおれおれ詐欺などの警戒を呼びかけたばかりで、各町会を通じ、家庭への広がりが喫緊の課題となっています。

事件に遭遇する前は、自分なら絶対引っかかるないと自負していても、いざ身内の絡んだ事件ともなれば気も動転し、日ごろの冷静さを失ってしまう方が多いようです。お金を振り込む前に、人に相談するとか、事実を確認することが大事だと思います。

警察庁によると、全国的にも「振り込め詐欺」は激増し、住宅への「侵入強盗」も増えているそうです。自分たちの町会は、班は、組は絶対狙われないよう、連帯感を強め、新年は犯罪のない明るい町づくりを推進していただきたいものです。

### 哀悼録

平和台町会長 吉田 行雄  
(平成16年10月17日ご逝去)  
横山町町会長 奥崎多三郎  
(平成16年11月12日ご逝去)  
佃北町会長 熊谷 猛美  
(平成16年12月18日ご逝去)  
慎んで哀悼の意を表します。

### アパート入居者の 町会加入促進対策

#### 町会連合会の取り組み

各町会が共通して頭を痛めているアパート入居者の町会未加入と町会費の徴収について、町会連合会は16年度の重点課題として取り組んでいますが、現在次のような状況です。



りに掲載された町連の協力要請よ

- ① 7月23日(金)に土地建物取引業団体2社に「ごみの出し方と町会加入、町会費徴収に関する」5項目の協力を要請。
- ② 7月27日(火)に「アパート等入居世帯に係わる町会加入促進とごみ出しマナーアップの推進のための建主等の情報提供について」各町会長